

## 令和5年度 第2回釧路市社会教育委員会議【議事録】

日時 令和6年1月24日(水)10:00~11:40

場所 釧路市生涯学習センター 801号室

### 1. 出席委員 15名中10名出席

田丸典彦委員長、石田憲一副委員長、鶴沼康有委員、大久保 貢委員

加賀谷淑子委員、佐藤明美委員、田中達也委員、種市文彦委員

濱口憲太委員、藤原節男委員

(欠席5名:)大嶋春香委員、久原陽子委員、齋藤協子委員、田中郁子委員

中西紗織委員

### 2. 市出席者 13名

岡部義孝教育長、工藤生涯学習部長、澤口生涯学習部次長(生涯学習課長)

塩田美術館長、乙黒スポーツ課長、松本博物館長、平野動物園ふれあい主幹

北村阿寒生涯学習課長、長谷地音別生涯学習課長、外崎青少年育成センター所長

伊藤生涯学習課長補佐、牧野主任(社会教育主事)、岩田主事(社会教育主事)

### 3. 議事

(1) 釧路市社会教育推進計画第5次(令和4年度)実施計画の評価結果について

(2) 協議

(3) その他

### 4. 議事説明内容と質問等

#### 議事(1) 釧路市社会教育推進計画第5次(令和4年度)実施計画の評価について

生涯学習課より、社会教育委員が行う第5次(令和4年度)実施計画の評価結果を説明した。

#### 【質問】

委員: 評価の目的は、PDCAサイクルによって課題を掘り出し、改善につなげていくことである。

C・D評価が無いから良いというものではない。次回の評価は、何を掘り出し、改善につなげられるのかに重点をおく評価方法を考えてほしい。

また、委員が分かれて行う評価部会であり、自分の部会の情報は分かるが、他の部会は分からない。これらの改善も必要である。

事務局: 計画の評価については、同様の方法で長く行ってきたこともあり、事務局としても見直しを考えていた。次回の会議で見直し案をお示ししたい。

また、各委員には基本方針ごとに4つの部会に分かれていただき評価を行っていただいていたが、他の部会の様子が分からないこともあり、見直しを行う中で検討してまいりたい。

#### 議事(2) 協議

釧路市社会教育推進計画の基本方針に沿って、委員相互に意見を出し合い、課題の共通認識及び次回の計画策定に生かすための協議を行った。

◎テーマ:「人権教育の推進」

《主な意見》

- 男女平等参画は、男性も女性もジェンダーにとられることなく、一人の人間としてどうしたら生きやすくなるのかを考えていく必要がある。旭川市が1月中旬にパートナーシップ制度を導入したが、上川管内の近隣8町と連携する。こういう横の繋がりが重要である。
- 釧路市の中学生による少年の主張において、LGBTQの問題を取り上げた生徒がいた。その生徒は、一つの個性だということを認めて今後も付き合っていきたいという主張をしていた。われわれ大人が偏見を外していく必要がある。
- 個性のある人が出てくるのは当たり前で、そういう社会だということを、まずは認識しなければならない。
- 最近では個別支援教育を学校に求められ、配慮してほしいと申請してきた学生には配慮しなければならない時代である。男女平等参画の必要性の中で過剰に気を使っても違う感じがする。柔軟に対応していくことが大切である。
- いきいき参画通信を見させていただいたが、行政で進めて行くこと、私たちが支えていくこと、社会全体の役目なのかなと思った。
- 家庭での人権教育が今後も大事になってくると思っている。親子の関わり方、家庭内での関わり方ということも希薄になって、さまざまな課題に起因しているという中で、人権教育を家庭で行うためには、子どもを一人の人間として尊重するべきだと思う。また、保護者自身が偏見や差別をなくすといったところが大事だと思う。
- 子どもたちは今、コロナもあって外出が非常に少なく、家の中での活動に変わるなど、子どもたちの生活の仕方が大きく変わってきているが、子どもとしての本質は変わっていない。一人の人間としてどう関わっていくかである。
- LGBTQの問題に対して真摯に向き合うということで、それぞれの学校の経営方針にこの要素を盛り込んでいる。小学校では、名簿は既に男女混合にしたり、呼称を「さん」付けにしたり、さまざまな取組を始めているところである。また、中学校ではブレザータイプの制服に変え、男女の差が露呈されるような、区別がない形に変わっていく取組も出てきている。各種検診も着衣のまま受けられるようになってきて、学校での健診も、男女別ではなく名簿順にできるように変わっていくのではないかと。一方、個別の配慮は大切だが、配慮をすればするほど、公衆道徳というものをどこで教えるかという問題も出てくる。家庭や地域とも連携し、子どもの個性を尊重しながらも、いわゆる道徳心といったものについては、学校の教育だけではなく色々な場面でやって行かなければならない。
- スポーツで言えば、剣道等は稽古自体女性も男性も一緒に稽古することは可能だが、試合をどう分けるかということについては、個としての運動能力の違いもあるので難しい問題である。個を尊重する、基本的な人権を守っていく、そのような社会、国というのは健全な姿だと考えるので、そのことについて論議をしながらより良い社会づくりが進んでいることは素晴らしいことだと感じている。
- 去年、名寄のマラソンで男女別のトイレが使いづらいという人用に、別のトイレが用意されたという話を聞いた。そういう配慮の仕方は大事だと思う。
- 普段の生活の中では、この問題には直面していないが、さまざまな情報を目にしたとき、とても大切な問題だと感じている。

○先ほど、これからの防災の話も出ていたが、極限状態の中で、どうやって互いを尊重しながら、助け合って生きていくのか、大きな課題になってくるのではないかなと思う。社会教育のテリトリーは非常に広く、生涯教育もあり、地域の結びつきをどうするかということもあり、私たちが住んでいるこの地域において、個としてバラバラにならないように、どうやって生きるかということを中心に大きな課題として考えていく必要がある。

### 議事(3) その他

なし